



アルフレート  
ジョン・テシエ  
テノール

オペラ、演奏会、リサイタルなど国際舞台で、美しく誠実な声、洗練された歌唱と多彩な創造性、リリック・テノール・レパートリーに映える存在感で称賛と注目を集めるカナダ出身のテノール。

2019/20年シーズンは、D.ウォルフ/コロラド響、K.ウルバンスキ/インディアナポリス響、R.ベルグマン/カルガリー・フィル（ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》）、L.ダラ/ヴァンクーヴァー・バッハ合唱団（ヘンデル《メサイア》）、準メルクル/ダラス響（ベルリオーズ《ロメオとジュリエット》）と共演。

これまでの主な出演は、ウィーン国立歌劇場の《セビリャの理髪師》、《連隊の娘》、《清教徒》、シャンゼリゼ劇場の《メデア》、シアトル・オペラの《真珠採り》と《マリア・ストゥアルダ》、英国ナショナル・オペラとニューヨーク・シティ・オペラの《愛の妙薬》、そして役デビューとなったマニトバ・オペラでのウェルテルなど。オランダ国立歌劇場のR.デ・ラーフ

《*Waiting for Miss Monroe*》世界初演、ロイヤル・オペラ・ハウスの《さまよえるオランダ人》、コロン劇場の《ドン・ジョヴァンニ》（南米デビュー）にも出演。

演奏会は、カーネギーホールでI.フィッシャー/セントルークス管とバッハ《マタイ受難曲》、F.ヴェルザー=メスト/クリーヴランド管とロッシーニ《スターバト・マーテル》およびシューマン《ゲーテのファウストからの情景》、H.ニケ/モントリオール響とモーツァルト《レクイエム》、M.オルソップ/ボルティモア響と《カルミナ・ブラーナ》などに出演。

D.ラニクルズ/アトランタ響およびB.ラバディ/レ・ヴィオロン・デュ・ロワ各々とモーツァルト《レクイエム》、L.スラットキン/ナッシュヴィル響とJ.コリリアーノ《ディラン・トーマスの詩による三部作》、K.ナガノ/モントリオール響とL.バーンスタイン《クワイエット・プレイス》などの録音がある。